

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4270104500		
法人名	有限会社 ゆう		
事業所名	グループホーム GARDEN-HOUSE		
所在地	長崎県長崎市宝栄町4番19号		
自己評価作成日	令和2年1月10日	評価結果市町村受理日	令和2年3月31日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/42/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉総合評価機構
所在地	長崎県長崎市宝町5番5号HACビル内
訪問調査日	令和2年2月20日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

建物も木造の作りで、家庭的な環境で、お互いに個々の能力を活かしながら笑顔で生活できるよう支援しています。日々の生活の中でのリズムを作り、四季を感じながら、季節行事の外出やお花見、外食などで、ホーム外での楽しみも取り入れています。ホーム内でも、各個人の誕生日に誕生会を開催し、季節の行事、敬老会やクリスマス会、お正月等、様々なイベントを開催しています。レクリエーションも全体でのレクリエーションや小グループでのレクリエーションなど皆様に笑顔で過ごしていただけるように努めています。 他には、職員のスキルアップの為に資格取得を積極的に支援しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームは家庭的で温かみのある木造洋風の造りとなっている。ホーム長は自治会役員や消防団員を務め、利用者も地区の夏祭りに参加する等地域交流を深めている他、毎年看護学生や中学生の職場体験も受け入れている。理念「笑顔」を念頭に、ホーム長は職員と垣根なく接し、勤続年数や年齢の幅を越えた職員の良好なチームワークを築いている。また、資格取得を支援しており職員の働きやすい環境・明るい職場環境づくりへの積極的な取り組みが確認できる。家庭的な普通の暮らしの実現に向けて、車椅子使用の利用者には毎回職員二人体制にてソファや食卓への移乗介助に徹しており、高く評価できる。利用者の介護度が高くなる中、外出や外食、誕生会や季節の行事、個々に合ったレクリエーションなど笑顔の支援を心掛けており、理念の具現化が見えるホームである。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	・理念の笑顔を共有し、実践している。 経営理念も、朝礼時に唱和し、その後に笑顔で頑張りましょうと、共有し実践できるように取り組んでいる。	各ユニット内に理念と経営理念を掲げ、職員の意識を高めている。ホーム長は“職員の雰囲気を利用者も変わる”ことをモットーに、職員と垣根なく接し職員間の良好なチームワークも築いている。明るい雰囲気がホーム全体に浸透しており、理念「笑顔」の具現化が確認できる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	・散歩等の時は近隣住民の方とあいさつしたり、隣接しているサービス付き高齢者向け住宅の方と、交流している。	自治会に参加し、ホーム長が地区の役職に就き夏祭りを企画しており、利用者も参加している。ホームでは看護学生や中学生の職場体験を受け入れ、敬老会では学生による踊りで賑わう等繋がりを深めている。散歩時は地域住民と挨拶を交わし、地域の一員として日常的に交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	・看護学生や、中学生の実習の受入れをしており、コミュニケーションや支援方法、認知症の理解を深めている。近隣の方もコミュニケーションを取り理解して頂けるように努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	・2カ月に1度開催し、ホームでの活動報告や活動予定、その他、家族の方からの質問や、ご意見を伺い、話し合いを行いサービスの向上に活かしている	運営推進会議は年に6回、規程のメンバーを満たし開催している。毎回4、5名の家族が参加しており、質問や意見等話し合った内容をサービス向上に活かしている。議事内容は全家族へ送付している。地域住民代表の紹介により、利用者が地区の行事に参加する機会も得ている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	・不明な点がある場合は連絡している。	行政から案内がある研修や勉強会に職員が参加している。行政担当課職員が定期的に訪問している他、毎年介護相談員を受入れ、報告内容を支援に活かしている。不明な点は問い合わせしており、日頃からサービスの取組みを積極的に伝え、協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	・ユニット間の出入りなど自由に出来る様、自由な暮らしの実現に向けて取り組んでいます。玄関の施錠は夜間帯の防犯目的のみの施錠となっている。	身体拘束の適正化に向けた委員会を内部研修と併せて1～3ヶ月に1回開いている。車椅子利用の利用者を毎回ソファや食卓へ移乗することを徹底している。日中の施錠はなく、スピーチロックは都度注意しており、ホーム全体で身体拘束をしないケアの実践に努めていることが確認できる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	・ホーム内での研修を行っている。 職員同士でも注意をし、言葉かけ等も気を付けて、虐待防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	・後見人制度を利用されておられる方、又現在申請している方もおられ、個々の必要性を話し合い、活用できるように支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	・契約の前に、ホームの規定などもご家族と話し、契約締結時にも説明し、疑問などあれば都度、説明を行い納得して頂く様に対応している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	・ご家族は来訪時に現況報告や、家族からの意見を伺っており、反映している。	苦情相談の体制や外部窓口、意見箱など利用開始時に説明している。職員は、家族が意見や相談をしやすいよう普段のコミュニケーションを大切に接している。電話や面会時に利用者の様子を伝える際に、家族の意見などを汲み取っている。得た情報は職員と共有し、サービス向上に活かしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	・管理者は職員の意見や提案を常に聞いており、話しやすい環境となっている。又管理者は代表者にも意見の提案などをし、聞き入れて頂き反映させている。	会議や申し送り時など、職員はホーム長に意見や提案を表している。年1回、ホーム長は職員個別に、意見を聞く場を設置している。福利厚生や処遇に関する質問があり、職員会議を設け詳しく説明している。ホーム設備の修繕や購入、職員の希望シフトや資格取得希望など、職員の意見を働きやすい職場環境づくりに活かしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	・個々の状況を把握し、向上心を持って勤務出来る様に努めている。昇給制度の確立、有給休暇がとりやすい人員体制など、家庭と職場の両立に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	・社内研修を行っている。又外部研修は希望に応じて参加できるようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	・グループホーム連絡協議会に加入しており、交流できる。管理者は意見交換など取り組みをしている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	・入所の段階で、ご家族にホームでどのような生活をしてもらいたいのか聞き取りしている。又入居後の生活に早く馴染んで頂けるように、職員、他入居者との関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	・入所前にアセスメントを行い、入所当日から希望に添えるよう支援を行っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	・入居時の家族からの聞き取りをし、出来る事出来ない事を見極め、支援している。又入居当初は出来なくても、慣れると出来る事もあるので常に見極めをした支援に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	・利用者が気を使わないよう雰囲気作りを大切にし、共に楽しめるように実践している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	・ご家族がホームへ来られた時は、ご家族が出来る支援を遮る事が無いよう、又負担にならない様に見守り介助に入りながら、共に支えていく関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	・ご家族の協力のもと、なじみの人のホームへの訪問や、外出をして頂いており、面会時間も設けず、関係が途切れない様に努めている。	利用者や家族から、生活歴や馴染みの関係についてヒヤリングしている。家族や知人の訪問は自由である。行きつけの美容室に出掛けたり、馴染みの美容師の訪問美容も受け入れている。年賀状や携帯所持により連絡を取り合う他、習慣に合わせ寺に参ったり、商店での買い物、神父訪問など人や場との関係継続を支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	・個々の生活リズムを把握し、孤立せず、関わり合い支えられるような支援に努めている。トラブルや嫌な思い、ストレス等受けないよう、職員が間に入り、楽しい雰囲気作りを心掛けています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	・契約が終了しても訪問があったり、年賀状などの行き来もあり、関係を継続し、相談などがあれば支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	・日々の生活で希望などは聞いており、計画を立てたり、声掛けして買い物に行ったりしている。困難な場合は、以前聞き取りしていたことや、その時の表情や言葉等を観察し、本人本位で検討している。	職員は、居室での介助時や移動の車中など、1対1になる時に、利用者の思いや暮らし方の希望を把握している。把握が困難な場合、家族の意見も含め、本人本位に検討している。日中の過ごし方、化粧など身だしなみや居室での過ごし方など、利用者の思いを反映している。職員は、申し送りや個人記録で情報を共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	・入事前にご家族などから聞き取りはしているが、入所後に本人より聞き取りし、把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	・日々、体調、精神状態を観察し、変化があれば都度職員間で共有し、申し送りし、把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	・日々のケアの中で、ご家族訪問時には常に状況報告し、ケアの方法なども話し合っている。又係りつけ医への助言もいただいております作成している。	利用開始後暫定プランを立て1ヶ月で見直している。その後短期6ヶ月・長期12ヶ月の計画を作成している。3ヶ月毎にカンファレンスを開き、ホーム長がコメントをその都度記載している。職員は面会時や電話で家族の要望や同意を得ている。ユニットでケア内容の伝達を日常的に図っている。ただし、介護記録に計画との連動がみられない。	個別の介護計画を基に日々の支援を行い、見直しに繋げていくことを全職員が認識し、計画と支援の記録が連動することを期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	・日誌を個々につけており、職員間で共有しながら実践や見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	・その時々生まれるニーズに対しては、柔軟に対応している。週5日程度は、人員体制を増やして急な対応も取れるよう取り組んでいる。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	・ホームの食事やおやつの買い物や、個人の買い物に出かけ、季節を感じながら安全で豊かな暮らしが出来るように支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	・入居時には係りつけ医の変更は行っており、以前からのつながりを大切にしている。又、係りつけ医との関係づくりも行い、適切な医療が受けられる様に支援している。	入所前のかかりつけ医を継続でき、他科受診も含め職員が通院同行し、結果を家族に伝えている。検査時は家族が同行する場合もある。協力医の往診を月2回受けており、日頃から協力医の看護師に相談し連携を取りながら、緊急時等の医療支援に努めている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	・体調不良時は、係りつけ医に連絡し、看護師との情報共有し、訪問看護や往診を受けられるように支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	・入院した場合は、ホームでのケアの方法や対応をお伝えし、何かの場合は連絡頂けるように関係を築いている。又早期に退院できるように、経過の把握と、退院後の支援についても情報交換をしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	・重度化した場合の指針を作っており、入居時に説明している。ターミナルケアは基本していない旨は入居前の見学などから説明は行っている。入居後は本人の身体状況など変化がある時などに係りつけ医や家族との相談し、その後の方針を決めている。	看取りを行わない方針であり、重度化した場合の指針を、入居時に家族へ説明し同意を得ている。利用継続が困難になった場合は、家族の意向に沿い主治医へ相談し、協力を行う体制を取っている。その中で主治医、家族の意向により、昨年は2件の看取り支援を行っており、今後もさまざまな状況への対応を検討中である。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	・救急救命や処置は定期的に訓練を行っており、実践されている。消防署の方より1年に1度指導も受けており、急変があった場合は対応できている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	・火災の訓練は毎月行っている。水害時の訓練は、1階から2階への避難の実践を行っている。管理者が消防団に入っており、協力体制も整えている。	毎月の消防訓練では搬送方法の実践など、さまざまな想定内容が確認できる。年1回は消防署が立会い、総合訓練を実施している。ホーム長が消防団に所属しており、地域との協力体制を築いていることが確認できる。前回の評価後、自然災害のマニュアル作成と訓練の実施に至っている。非常持ち出し品、備蓄品の整備もある。	

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	・個々それぞれ人格を尊重し、対応している。言葉かけもそれぞれに合った話し方やトーンで対応している。又、不十分な対応や声掛けがあれば、職員同士で声掛けし気を配っている。ミーティング時にも確認し、対応できるように努めている。	職員は、利用者を年長者として敬意を払い接しており、慣れ合いにならないよう、言葉遣いや声の大きさに気を付けている。羞恥心に配慮し、トイレ介助している。トイレのすりガラスに目隠しを貼ったり、居室ポータブルトイレの配置も工夫している。書類は事務所で管理し、職員に守秘義務の周知徹底を図っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	・利用者の方が、思いや希望などを発しやすいう会話をし、何でも話し合えるよう支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	・大まかなりズムは決まっているが、その人のペースに合わせて暮らして頂けるように努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	・服が選べる方は選んでいただき、間違っただけ場合には、自尊心を傷つけないよう支援する。2カ月に1度美容師訪問でカットして頂いている。整容が出来ない方は、ホットタオルや櫛などで整えている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	・調理の手伝いから、食後のお皿拭き等まで、個々の出来る範囲でお手伝い頂き、一緒に準備から片付けまで行っている。又食事と同じテーブルで一緒に食べている。	利用者の嗜好やリクエストを献立に取り入れ、職員が調理している。調理の下準備や後片づけなど、利用者も一緒に行っている。食事は、職員も一緒に食卓を囲み談笑する家庭的な光景がある。本人の食事のペースに合わせて食事介助している他、利用者のリクエストに応じ外食に出掛けるなど、皆が食事を楽しめるよう工夫している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	・カロリー計算などは行っていないが、食事量や水分量は掛かりつけ医と相談しながら行っている。又、食事の形態も、普通食・きざみ・超きざみ・トロミ・ミキサー等状態に合わせた形態で提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	・毎食後口腔ケアの声掛け、誘導、介助しており、個々に応じたケア方法で行っている。必要に応じ歯科受診・往診している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	・排泄パターンを把握し、トイレ誘導し、排尿排便無時は柔軟に対応し誘導介助している。ご家族の方の経済的負担も考慮している。	ホームでは、トイレでの座位による排泄を支援している。職員は、排泄状況を排泄パターン表に記録し、記録をもとに随時ミニカンファレンスを実施している。できる限りパッドに頼らない支援に取り組んでいる。尿意がない利用者にパッドを使用することで尿意を取り戻すなど、利用者が快適に過ごせるよう支援に繋げている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	・排便コントロールをしており、医師からの処方薬を使用したりしている。又、お腹のマッサージなどでも排便を促している。排便はチェックしており、申し送り時に職員間での把握に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	・入浴は基本決まっているので、午前・午後希望や、介助する職員(男女)の希望がある場合は尊重し対応して入浴支援を行っている。拒否される方も強引な誘導ではなく、タイミングや状況を図りながら意欲的に入浴いただけるよう努める。	週3回を基本として入浴支援している。入浴拒否時は強制せず時間を変えるなど工夫し、職員同士で声掛けの成功事例を共有している。同性介助も対応している。利用者の希望があれば、好みのシャンプー類や入浴剤など家族に依頼し、個別に対応している。職員は利用者が浴槽に浸かり、リラックスできるよう取り組んでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	・個々の生活リズムに合わせて休息したり、安心して休めるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	・薬の目的、副作用、用法は理解しており、薬の変更や頓服薬も都度情報の共有をしている。内服時には誤薬を防ぐため職員間でダブルチェックしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	・散歩や買い物などの外への活動や、個々に合わせ津レクリーションなどをし支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	・外出の希望の場合は一緒に予定を立てて外出できるように支援している。家族とのがしゅつも車いすの貸し出しや、内服薬の説明やケアの説明を行い、スムーズに外出できるように支援している。	天候や体調を窺いながら、ホーム周辺を散歩している。できる限り歩いてほしいという思いで、2人介助での対応もある。買い物や寺に参るなど、個別の外出も計画に入れて支援している。家族の協力以外出する際は、車椅子の貸し出しも行い支援している。花や風景、地域行事見物の外出など、皆で外出を楽しめるよう工夫している。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	・ホームでの現金の預かりは行っておらず、個人で現金を持たれる場合は紛失の可能性がある事等を説明し、家族がそれに応じた金額を本人に渡しておられる。買い物へ行った時にお金を持たれている場合は、支払いを見守り・支援している		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	・電話や手紙のやり取りの支援をしている。携帯電話の所持等、本人及びご家族の希望に沿う様支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	・季節を通し、壁の飾りを入居者と一緒に制作しリビングや廊下をかざったり、毎月のカレンダーを手作りで制作したりしている。居室やトイレもわかりやすく表示している。	採光の良いリビングにはソファや電子ピアノを備え、利用者による伴奏など音楽で賑わう憩いの場となっている。一角にあるキッチンも、自宅同様に調理の音や匂いを感じることができる。ユニット各々に行事の写真や利用者が制作した作品、季節の飾り等を掲示し楽しい雰囲気である。職員は毎日の清掃等により清潔保持に努めている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	・リビングでは話をされるときには隣同士、静かにテレビを見たり話をされない時は別の席等、その時に応じた席への誘導などを行っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	・入居時には出来るだけ自宅が使われていた家具や寝具等を入れて頂いている。入居後も本人と一緒に作品を飾ったり、一緒に居室を作り心地よく過ごせる様に工夫している。	入所時から自宅の寝具類を利用している他、使い慣れた椅子や家族写真、位牌や愛読書等が並んでおり、これまでの暮らしを継続する様子が窺える。衣類やパッド類など収納スペースを設け整理しており、ポータブルトイレも布で覆い人目に触れないよう配慮している。職員は換気や温度調節、清掃を行い、環境整備を担っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	・出来る事、わかる事は個々に把握し、安全に自立した生活が送れるように工夫している。		